

たらのきの半身萎凋病（新発生）

令和4年6月に上川地方のたらのき(令和2年定植株、品種：深山)で下葉から黄化し、茎から葉柄が脱落する症状が認められた。茎を切断すると、維管束あるいは中心柱に褐変が認められた。茎の褐変部から糸状菌が分離され、分離菌株をたらのきの苗に接種したところ、原病徴が再現され、分離菌が再分離された。分離菌の菌そうは PDA 培地上で白色から黒色に変わり、微小菌核を多数形成した。分生子柄には無色で3～5本のフィアライドが輪生し、その先端から分生子が疑頭状に形成された。形態的特徴及び遺伝子解析から *Verticillium dahliae* Klebahn と同定した。

(上川農試、上川農改セ)



たらのきの半身萎凋病の発病株と維管束の褐変
(中央：上川農改 原図、右上：上川農試 長濱 原図)